



知ってトクする節約術 第3回

電気代を抑えるヒント

乗り換えは本当にお得？

冬に向けて再び上がる電気代、
どう抑える？

電気代は季節に応じてアップダウンが激しい費目の1つです。「エアコンの使用などにより電気代が比較的高くなる8月、9月を乗り越え、10月が7000円ほどに落ちてきたとしても、これから冬にかけて1万5000円程度にアップしていくのが例年のパターン」という家庭も多いのではないのでしょうか。

2016年4月からは電気、2017年4月からはガスの小売全面自由化が始まりました。気温が下がり、光熱費がかさむこれからの時期に向けて、契約プランを見直すことも家計にとって有効となりそうです。

電気を多く使っている家庭は、
乗り換え効果が出やすい

電力自由化により、電気料金プランが多様

になりました。従来の電気料金プランだと、電力使用量が増えるほど単価が上がる料金体系が一般的でした【下図】。1kWhあたりの電力量料金でいうと、300kWhを超えると最も単価が高くなります。これに対し、電力自由化で新規参入した会社の電気料金プランでは、単価を一律にしたり、単価を引き上げる電力使用量の区切りが異なったりするため、電力会社を乗り換えることで電気代が安くなるケースがあります。

このような仕組みにより、1カ月の電力使用量が300kWhを十分に超える、例えば毎月450kWh以上使っている家庭などでは、電力会社を変えることで、電気代が大きく削減できる可能性があります。「家族の人数が多い」「春や秋の比較的電気代が安いシーズンでも1万円以上かかっている」といった家庭では、乗り換えを検討する価値が高いでしょう。

一方でひとり暮らしなど、もともとあま



風呂内 亜矢

1級ファイナンシャル・プランニング技能士

【ふろうち・あや】

26歳・独身・貯金80万円でマンションを衝動買いし、慌てて貯蓄とお金の勉強をスタートする。現在は夫婦で4部屋の物件を所有し、家賃収入も得ている。テレビ、新聞、雑誌のほか、書籍でも積極的にお金に関する情報を発信している。最新刊は『ほったらかしでもなぜか貯まる!』（主婦の友社）。

【従来の電気料金プランの例】

基本料金

アンペア	基本料金
10A	280円80銭
15A	421円20銭
20A	561円60銭
30A	842円40銭
40A	1,123円20銭
50A	1,404円00銭
60A	1,684円80銭

1kWhあたりの電力量料金

電力使用量	電力量の単価
最初の120kWhまで	19円52銭
120kWhを超え 300kWhまで	26円00銭
300kWh超過	30円02銭

例：50Aで400kWh使用した場合の
1カ月の電気料金
1,404円 + (19円52銭 × 120kWh) +
(26円 × 180kWh) + (30円2銭 × 100kWh)
≒ 11,446円 (円未満切り捨て)

り電気を使っていない家庭では、乗り換えでも効果がないケースも多いです。

乗り換え効果は、純粋に「電気代」が安くなるのか？

電力会社の乗り換えにあたっては「エネチェンジ」や「価格・com」などの比較サイトを利用して、乗り換え後の電気代をシミュレーションし検討するのが便利です。

この時、乗り換えることによってお得になる**金額の内訳をしっかりと確認**するようにしましょう。なぜなら、比較サイトによるシミュレーションでは、純粋な電気代は安くならなくても、電気代以外の入会特典や電気代に応じたポイント付与、サービスの割引などを加味してお得になる金額の総額が示されることも多いからです。

日頃からよく使うポイントやサービスの割引であれば確かにお得を享受できますが、あまり使っていないポイントやサービスで



あれば、結局家計としては乗り換えたことによる恩恵が少なくなることもあるため、注意が必要です。

比較サイトによっては電力会社のサイトにリンクし、乗り換えを申込みのようになっています。この際、同じ電力会社に乗り換える場合でも、経由する比較サイトが異なれば乗り換えの際にお得になる条件などが変わることもあるため、**複数の比較サイトでチェック**するのがおすすめです。

1年間の電力使用量の実績で試算するのが理想

比較サイトにある、乗り換え後の電気料金シミュレーションでは、試算方法がいくつかあります。よくあるのは「電気代」か「電力使用量」のどちらかをベースに計算する方法と、「ある月の値を入力し概算とする」か「1年間の実績を元に計算する方法の組み合わせです。

一番簡単なのはある月の電気代を入力して試算する方法で、一番精度が高くなるのは1年間の電力使用量を正しく入力してシミュレーションする方法です。

1kWhあたりの電力量料金の単価は、石油などエネルギー資源の調達価格によって変動します。したがって、まったく同じ電力使用量でも、年によって価格が異なるのが一般的です。電気代から行うシミュレーションはあくまで概算ということを、覚えておきましょう。

また、特定の月だけの電力使用量または電気代によるシミュレーションでも、「この月にこのくらいの電力使用量（電気代）だった家庭は、一般的に他の月はこのくらいである」という概算をもとに、お得になる金額を算出することになります。

概算となる要素が多いほど、実態との誤差が大きい試算となりやすいため、面倒でも、**1年間の電力使用量の実績を入力して試算**ができれば理想的です。1年間の電力使用量の実績は、多くの電力会社で過去データを閲覧できるサービスがあるため、そちらで確認すると良いでしょう。東京電力の例であれば「でんき家計簿」というサービスがあります。

セットプランが安いとは限らない

ここまで、電力会社の乗り換えを検討する方法についてお伝えしてきました。昨年4月からはガスも小売全面自由化となり、同様に比較サイトで検討できますが、電力会社の乗り換えほど効果がないケースが多いようです。

電力、ガス共に自由化となり、セットプランなども打ち出されていますが、電力とガスと同じ会社にしたら得になるとは限らず、例えば電力会社のみ乗り換えたほうがお得になるケースもあります。「セットプランが安い」という固定概念に捉われず、本当にお得かどうか見極めることが大切です。